別紙様式1

令和8年度　学校評価表

（　中間　）　　学校名　三原市立本郷西小学校　　校番（　18　）

a 学校教育目標	「なりたい自分」に向かって切磋琢磨する児童の育成 －自ら伸びる　ともに伸びる－	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　主体的に思考・判断・表現し、夢に向かって行動できる児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像）「自ら伸びる　ともに伸びる」 目標に向かって切磋琢磨する姿のある学校 ・主体的・対話的で深い学びをめざす児童 ・誇りとやりがいをもち学び高め合う教職員 ・挑戦・失敗を評価し応援する保護者・地域

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
c 中期経営目標		d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	基礎学力を定着させ、「主体的・対話的で深い学びを進める力」を育成する。	基礎学力の確かな定着を実現する。	・帯タイムの更なる効果的活用 **①習熟度別・少人数指導の継続実施** **→　全教職員参加！「みんなの伸びが分かる」指導と評価の工夫**	国語科・算数科・理科の単元末テスト結果 （各学期） 標準学力調査結果（12月実施）	各学期各教科 知識・技能　平均85点以上 思考・判断・表現 平均75点以上 全国平均以上	知識・技能 国語 88.4点 算数 88.5点 理科 87.7点 思考・判断・表現 国語 90.2点 算数 77.4点 理科 81.4点		知識・技能 103% 思考・判断・表現 110%	A	・帯タイムの有効活用や習熟度別学習の成果により、全教科において知識・技能および思考・判断・表現の目標値を達成した。 ・学年別では一部で目標未達成が見られ、特に算数科の能力（高学年）において「学びを相互に関連付けて考える力」に課題が残る。	・帯タイムにおける国語科課題の補充 ・全教職員の参画による習熟度別学習の充実 ・算数科の系統性に関する教員研修の実施	○			・日頃の授業において、児童が落ち着いて集中して学習に取り組めている点は高く評価できる。また、担任以外の教職員も含め、全校体制で児童に関わろうとする姿勢がうかがえる点も望ましい。 ・学習の定着および「主体的・対話的で深い学び」を一層深めるための課題も散見される。今後は、シラバスや学習目標のバックアップを確実に行い、児童自身が進捗状況や達成度を具体的に実感できるような「学びの可視化（見える化）」を進めることが求められる。 ・単に正解を追究させるだけでなく、「失敗から学ぶ体験」を学習過程に意図的に取り入れるとともに、自己決定の場を確保し、自己調整学習能力を高める工夫を期待したい。 ・学習のゴールや進捗を提示する工夫を通じ、児童が自ら学びを振り返り、達成感を味わえるような学習展開を推進されたい。
		主体的・対話的で深い学びを進める力、自己決定力、思考力・表現力を育成する。	・「3つの『たい』話」のある授業づくりの徹底 **→　児童の考えを深める発問** ①「やりたい」 課題設定の場 **②「話したい・聞きたい」　思考・表現の場** ③「もっと伸びたい」 R80によるふり返りの場の充実	教職員アンケートによる評価 「児童の思考が深まる発問をしている」 「ふり返りで『伸び』を自覚できる工夫をしている」 児童アンケートによる評価 「自分の考えを自分の言葉でみんなに説明している」 「授業の終わりには自分の考えが深まっている」	各項目肯定的評価 80%以上	83.4% 75% 83.3% 80.6%		104% 93% 104% 100%	B	・教職員アンケート結果から、児童の思考を深める発問を意識した授業改善が着実に進んでいることが確認された。一方で、授業終わりの「振り返り」を通して児童自身に学びの深まりを実感・自覚させる指導法に課題が残る。 ・児童アンケートでは、「自分の考えを自分の言葉で説明している」「授業の終わりには自分の考えが深まっている」の項目で目標値を達成しており、思考力・表現力の育成において一定の成果が得られたと捉えられる。	・授業研究を中心とした教職員での共有と継続的な授業改善 ・習熟度別学習を通じた児童自身の成長の見える化 ・児童のR80の共有およびさらなる充実 ・他教諭による参観授業の実施に伴う教員指導力の向上				
豊かな心の育成	自他を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。	自分や自分を取り巻く人・環境を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育成する。	・「自己決定の場」を大切にした学びづくりの推進 ① 特別活動の改善と充実 **②生活科・総合的な学習の時間での「本物」の交流・発信の実施** **→「社会を変える体験」の実現**	教職員アンケートによる評価 「学習や生活で児童たち自身で自己決定する場面を設定している」 児童アンケートによる評価 「自分にはよいところがある」 「学習や生活で自分・自分たちで考え決める場面が増えている」	各項目肯定的評価 80%以上	100% 83% 85%		125% 104% 106%	A	・教職員が意図的に自己決定の場面を設定したことで、児童が自ら選択・決定する機会が定着した。 ・「自分にはよいところがある」と回答した肯定的な評価の児童が多く目標値を達成したが、全校で18名の児童が自分に自信を持てずにいる点が課題である。 ・「自分たちで考え決める場面が増えている」と感じる児童が多く目標値を達成できた。これは、児童が主体的に活躍できる場を意図的に設定してきた取組の成果だと考えられる。	・児童が主体となる授業づくりや委員会・縦割り班活動などの意図的な設定 ・教職員間における児童実態の把握と肯定的評価の先行 ・高学年を中心とした各委員会・縦割り班・通学班活動の充実	○			・校内環境の整備および児童の人間関係の構築については、高い成果を上げていると評価できる。特に、図書室の環境整備や身近な読書環境の工夫により児童が本に親しめている点、校内に心地よい歌声が響き渡っている点、そして児童同士の関わりに優しさや思いやりがあふれている点は誠に素晴らしい。 ・現状の良好な環境をさらに高めるための具体的な提案もなされている。今後は「朝の集いの時間の充実」や「校内へのベンチ設置等による落ち着いた居場所づくり」、さらには「放課後における児童の様子の把握・情報共有」など、環境面・心理面双方からのアプローチを一層深めることが望まれる。 ・児童が互いを尊重し合い、穏やかな心で豊かに自己表現できる場や交流の機会を、今後さらに充実させていくことを期待したい。
				教職員アンケートによる評価 「生活科や総合的な学習の時間のシラバスの一部（ゴール）を改善しようとしている」 児童アンケートによる評価 「生活科や総合的な学習の時間で『やりたい』『伝えたい』という思いをもって学習に取り組んでいる」	各項目肯定的評価 80%以上	55% 83%		68% 103%	B	・児童アンケートでは地域人材を活用した学習への意欲が高く目標値を達成したが、教職員アンケートでは授業改善に対する意識評価が目標値を下回った。 ・地域との連携により児童が意欲的に取り組む姿が見られる一方、総合的な学習の時間における授業改善には段階的な取組が必要である。現在、3学期の成果発表（発信場面）に向けた指導案の工夫や授業探究を進めているところである。	・総合的な学習の時間における自己決定の場を設定した積極的な授業改善 ・3学期に実施する総合的な学習の時間における発信場面の工夫 ・地域学習実施後における振り返り（R80）の充実		○		
健やかな体の育成	生涯にわたる健康に対する高い意識を育て、体力の向上を図る。	「運動は楽しい」「やれば伸びる」「もっとしたい」という主体的態度を育成する。	・「ともに伸びたくなる環境設定」のある体育科授業・体育的行事の推進 ①「サーキットトレーニング」の充実 **②「低中高合同体育」の実施** **→　異学年間の学びの充実**	教職員アンケートによる評価 「課題意識と体力の向上に繋がる導入の工夫をしている」 「『低中高合同体育』を通して異学年間の学びを充実させている」 児童アンケートによる評価 「体育の授業や友達と運動することが楽しい」	各項目肯定的評価 80%以上	84.5% 96.3%		105% 120%	A	・児童および教職員ともに目標値を達成した。職員研修において導入の具体例を提示し、相互に授業を交流したことで、授業導入の工夫改善が図られた。異学年交流における事前・事後の指導連携を通して、児童の学びをより深めることができた。 一方で、取組の推進に難しさを感じている教職員もいるため、具体的な実践例や指導の手立てを共有・交流する機会を今後さらに充実させる必要がある。	・異学年交流に向けた低・中・高学年ブロックでの計画立案および連携の場の設定 ・取組における課題・改善策や好事例の全体交流の場の設定	○			・児童の体力・運動面においては、教員の指示をよく聞き、意欲的に体を動かせている姿勢がうかがえ、良好な指導が行われていると評価できる。一方で、運動機能や環境面に起因する弱矩な課題も散見される。特に投能力の向上に向けた意識的な指導や、少人数環境に配慮しつつ運動量を確保するための工夫・環境整備が強く求められる。 ・児童の主体性を引き出す工夫として「好きな運動を選択できる場」の設置や、運動を通して気後れせずに声を出す姿勢の育成といった有益な授業もなされている。 ・今後は、段階的な指導（スモールステップ）と十分な運動量の確保を意識し、児童が楽しみながら主体的に体力向上へ向かえる環境づくりを推進されたい。
働き方改革 業務改善	新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図る。	地域・保護者が有する教育力との連携を図り、地域に開かれた教育課程を実現する。	・コミュニティ・スクールを活用した「ふるさと学習」の推進 **①「ふるさと学習」の改善・刷新** **→　校内担当者・地域学校協働活動推進員の連携強化**	学校運営協議会委員・保護者による評価 「校内担当者・地域学校協働活動推進員の連携強化によって「ふるさと学習」の改善・刷新が進んでいる」 児童アンケートによる評価 「ふるさとにはよいところがある」	各項目肯定的評価 80%以上	94%		118%	A	・児童アンケートでは高い肯定的評価を得た。今後は学習内容の定着と充実を図りつつ、持続可能な協働体制を確立する。学校運営協議会委員および保護者による評価は、今後実施予定。 ・勤務環境改善の取組により、ストレスチェックの肯定回答率は93.7%となった。今後も継続的な取組を通じて、相互理解の促進とさらなる業務改善を進める。	・地域、保護者の評価を反映した持続可能な教育カリキュラムの整理 ・「確認会議」による相互理解・互いを認め合う職場風土の醸成と教職員の評価を基にした業務の効率化、平準化をめざした「困り感」の軽減と「働きがい」の向上		○		・教職員による児童への関わり方については、少人数である児童数に対し、一人ひとりへきめ細かく対応できている点が高く評価できる。教員が児童に温かく関わる姿勢は、本校の教育活動における大きな強みである。 ・今後はこの良好な関係性を維持しつつ、持続可能な学校運営を確立していくことが課題となる。特定の担任に負担が偏ることを防ぎ、全教職員がチームとしてすべての児童に関わる支援体制を早期に構築されたい。さらに、校務の可視化（見える化）を積極的に推し進め、教職員間の情報共有の円滑化と業務の平準化・負担軽減を実現することが不可欠である。 ・業務効率化によって創出した時間を児童と向き合う質の高い時間へと充て、更なる教育活動の充実につなげられることを期待したい。
		教職員が健康でいきいきとやりがいをもち勤務できる環境づくりを推進する。	・全教職員による教育ビジョン策定・確認会議の計画的実施 **①取組を理解し合う「確認会議」の定期的実施** **→　「働きがい」↑「困り感」↓に繋げる「認め合い」の充実**	「三原市立学校の教育職員に関する業務上管理・健康確保措置実施計画」の達成 ストレスチェック「働きがい」肯定的回答70%以上	100%達成	93.7%		139%	A						

【j:自己評価　評価】
A:100≦（目標達成）　B:80≦（ほぼ達成）＜100
C:60≦（もう少し）＜80　D:（できていない）＜60

【l:学校関係者評価　評価】
イ:自己評価は適正である。　ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。